

漢簡研究国際シンポジウム 開催さる

去る一九九二年二月一二・一三の両日、関西大学において同大学東西学術研究所主催の「漢簡研究国際シンポジウム九二」が開催された。中国・台湾で漢簡研究に携わる九名の報告をもとにして、東洋史・日本史・書道史等の分野の研究者による活発な討論が展開された。

報告は以下のとおり。

徐萃芳「中国における漢簡発掘の現状」、初世賓「居延新簡の歴史研究に対する貢献」、岳邦湖「エチナ川流域漢代遺跡の現状」、邢義田「中央研究院歴史語言研究所所蔵居延漢簡整理工作簡報」、吳祜驥「敦煌馬圈湾出土漢簡の特色」何双全「漢簡中の符伝と過所」、李永良「敦煌漢簡中の西域史料の問題について」、彭浩「湖北省江陵出土漢簡概説」、李学勤「湖北省江陵張家山出土漢律竹簡」